

(6) プログラム委員会報告

第五世代コンピューター国際会議プログラム委員会
委員長 田中 英彦

プログラム委員会を代表致しまして、テクニカルプログラム編成に付きまして、オーバーヘッドプロジェクターを使って少し数値などをお見せしながら、ご報告申し上げたいと存じます。

「FGCS'88」は前回の1984年に続くものでICOTのFGCSプロジェクト中期の最終年度に当たります。従いまして、1982年から始まったFGCSプログラムによって蒔かれた種が1985年からの中期プログラム、それによってどう成長し発展してきたか、それが示される年でもあります。

さて、今回の会議のプログラムを企画するに際しまして、まず設定致しましたことは、当初から4分野に分けて企画及び編成をしようということでした。

これはFGCS研究の深度、すなわち深さの深まり、それから世界的な量的拡大、そういうことに対処する為でございます。

従いまして、プログラム委員会も、ここに示しますように4分野、基礎・ファウンデーション、それからソフトウェア、そしてアーキテクチャ、コンピューター・アーキテクチャ、そして、アプリケーションズ、こういう4つに分けて編成を行うということにして、それぞれの小委員会を構成致しました。

そして、並列に作業を行って、全体の企画方針ですとか、立案・連絡そういうことは各小委員会の主査、ここに示させて頂いておりますが、主査の方々と、それから幹事の方、そういう方からなる幹事会を設けまして対処致しました。

プログラム委員は各分野に於いて活躍されて

いる方々にご参加頂きましたが、合計57名にのぼります。これらの方々のお名前は皆様に配布されておりますプロシーディングスの前の方に載せさせて頂きました。

テクニカルセッションは、基本的には公募論文から構成するという事で進めてまいりました。公募論文を中心として、それにいくつかの特別企画を加味致しております。

公募論文は今年の5月10日に締め切りました。応募国数が多い為に、2枚のスライドに分けてお見せ致しますが、ここに示しますように、世界の合計29カ国から併せまして合計355の論文が寄せられております。

前回は、つまり1984年でございますが、やはり29カ国から206件の論文を頂きました。従いまして70パーセント以上の増加になっております。査読は公平を期す為に一論文当たり4人の査読者をお願い致しました。そのうち一名は必ずプログラム委員の方にお入り頂きまして内容の把握に努めました。従いまして、合計世界中で483名もの多くの方々に査読をお願いすることになりました。その時期が夏休みに近かった為に、40日余りという非常に短い期間で査読を行わねばならず、各査読者の方々には大変重い負担を強いることになってまいりました。これらの方々のお名前もプロシーディングスの前に載せさせて頂いておりますが、その絶大なご協力のお陰様で遅れもなく論文選択を行うことが出来ました。

査読のポイントはリリーバンス、テクニカルコンテンツ、オリジナリティ等でございますが、

結果をお見せしますと、ここに示しますように、95件採録ということになりました。前回は3並列のセッションで2日間、合計62件の採録論文でしたが、今回は4並列セッションで3日ということでございます。

当初、採録件数としましては80数件予定しておりましたけれども、とても優れた論文が多い為とその枠内では収まり切らず、大変難しい選択を行うことになりましたが、セッションの時間を少し伸ばさせていただき、たとえば3日目は午後7時までになります、そこまで伸ばさせていただきましてトータル95件と致しました。

この件数も前回に比べまして、50パーセントの増ということになっております。

公募論文以外の特別企画と致しましては、幾つかございますが、ここに示しますようなものを設定致しました。

まず、普通のセッションが28件、それからインバイテッドペーパー、ここに示しておりますものはテクニカルセッションに関するものだけでございますが、各分野、それぞれお一人ずつご招待致しました。

このプレナリーセッションでも招待講演が2件、すなわちサイモン先生とクラーク先生の招待講演がございますが、ここに書いてあります4件はテクニカルセッションのものでございます。

ミルナー先生、それから二村先生、それからワレン先生、そしてギャレアー博士です。

これらの方々は、いずれもそれぞれの分野のキーパーソンということで、呼びさせていただきます。

3番目は、パネルでございます。

パネルはこのプレナリーにも一つございますけれども、テクニカルセッションでも一つ設けました。シャピロ博士にコーディネーターとなって頂きまして、FGCSの重要課題でございます並列処理に関するテーマを取り上げまして色々な観点から議論して頂くことになっております。

パネルは、このFGCS会議の最終日の午後、最終時間に予定されております。

それから、4つ目でございますけれども、各分野で一つずつ、現在最もホットになっております話題を取り上げまして特別セッションを組みました。

更に、世界のFGCS関連プロジェクトの動きを知る為のセッションの一つ作ってございます。ジェネラルという名前が付いておりますものがそれですが、それを作りました。

それから、ICOTの研究をもう少し深く議論する為のセッションを3つばかり加えさせて頂いております。

プログラム編成作業を通して感じましたことは、この分野の研究の進展が大変著しいことあります。FGCSという枠組みの基本的な能力、そして技術的なポイント、それが明らかになってくると同時に、いろいろな問題点の解決手段が次々に案出されまして、システムの性能向上にも著しいものがございます。また、この分野研究の量的拡大、それも著しく現在では非常に多くの方々携わっておられることを感じます。

今回この会議がこの分野発展の為の一層大きな推進力となり、研究者間の輪を広げる契機となると共に、プロシーディングスが研究の有用な資料となることを期待したいと思います。

どうぞこの5日間をお楽しみ下さい。

最後になりましたが、このプログラムを組むに当たりまして、企画編成にご努力頂きました多くのプログラム委員の方々、及び査読に多くの時間を割いて、貴重な意見を賜りました多くの査読者の方々に心からお礼を申し上げます。

そして、プログラム委員会を助けて実質的に膨大な作業をして下さいました、古川博士をはじめとするICOTの方々に深く感謝したいと存じます。

どうも、ありがとうございました。